

一人一人が防犯の意識を持ち、対策を行うことで、身近な犯罪による被害を減らすことができますが、さらに地域や団体に防犯活動に取り組むことにより、地域で起こる犯罪を未然に防ぐことができます。防犯パトロールなど、地域の防犯活動の取り組みを紹介します。

事例1

発寒北 連合町内会



発寒北連合町内会
防犯部長 上田久男さん



▲2月に町内で不審火や痴漢が相次いだため、警察などと合同パトロールを行いました（右から3人目が上田さん）。

発寒北連合町内会では、地域のお祭りや盆踊りなどの折に触れ、防犯パトロールを行っています。防犯パトロールを開始してから、小学校などとの連携が進み、地域の行事のために子どもたちと一緒にスノーキャンド

流の輪も広がりました。その結果、「子どもたちからあいさつをしてくれるような関係になり、うれしい」と同町内会上田防犯部長。防犯パトロールは子どもたちにとっても頼れる味方になっています。



▲ステッカーと腕章。周囲にパトロールの実施をアピールすることで犯罪抑止効果があるとされているので、グッズは目立つことが重要です。

ルを作ったりするなど交

事例2

スクールガード リーダー



▲スクールガードリーダーの滝敏昭さん。「自動販売機の明かりが犯罪者のターゲットを決める手助けになっていることもあるのですよ」と身近な場所にも注意を促します。

スクールガードリーダーは、教育委員会から委嘱を受けて、小学校や幼稚園などに登録している保護者や町内会役員などのスクールガードと連携して、児童や園児の安全のため活動しています。西区内では五人の元警察官が専門知識を生かし、校区内の危険箇所やその対策などについて、助言・相談を行っています。



▲八軒西小学校でのスクールガードパトロールの様子。滝さんの「歩道に乗り上げるように駐車した車の中に引きずり込まれる恐れもあるので、そばを通る場合には注意が必要」という話にスクールガードの皆さんからは「交通事故の観点でしか考えていなかったわ」などと、新たな視点に感嘆の声が上がっていました。

スクールガードリーダーの滝さんは「一度被害に遭うと、立ち直るには相当の精神力と忍耐力が必要になります。被害に遭わないために、子ども自身に危険回避の知識を身に付けさせることが重要です。そういった知識を教えること、パトロールなど、子どもたちのために私たちが大人ができることはまだまだたくさんあります」と話し、家庭と地域が一体となって、子どもを守る取り組みの重要性を強調していました。